

UNI-PEX

取扱説明書



ダイバシティ 300MHz帯 PLLワイヤレスチューナー付 ワイヤレスアンプ

CDプレーヤー、カセットデッキ付

WA-352D

WA-352

カセットデッキ付

WA-352C

このたびは、ワイヤレスアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

ご注意 (WA-352Dのみ)

CD-R、CD-RWなどに書き込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますので、ご使用に際しては充分ご注意ください。

目次

安全上のご注意	1~3
各部の名称と説明	4~5
使用電源について	6~7
ワイヤレスチューナー部の説明	8~10
別売ユニットの取付方法	11
操作のしかた	12~13
カセットデッキ部の説明	14~17
CDプレーヤー部の説明	18~23
接続例	24
点検方法	25~26
付属の防塵カバーについて	26
定格	27
外観寸法図	28

安全上のご注意 必ずお守りください

- ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。













⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
異常が起きたときは、ただちに使用をやめる 煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。	  プラグをコンセントから抜く
分解／改造はしない 火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。	
異物を入れない／濡らさない 水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)	
通風孔をふさがない 通風孔をふさぐ、ものを掛けたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。	
電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などにご交換をご依頼ください。	
表示された電源電圧以外の電圧で使用しない 火災・感電の原因となります。	
乾電池は、充電しない 電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。	
屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない 落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。	
表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない 事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。	
ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない 場所や距離や周囲の雑音条件によっては電波が到達しなかったり、瞬間的に電波が遮られたりして放送が途切れたりして、作業の指示などが完全には伝達できない場合があります、事故の原因となることがあります。	

 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
水・湿気・湯気・ほこり・油成分(油煙/油粒)などの多い場所で使用しない 火災・感電・故障・破損の原因となることがあります。	
不安定な場所に置かない 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	
電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	
異常に温度が高くなる場所に放置しない 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。	
長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く 火災の原因となることがあります。	 
お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く 感電の原因となることがあります。	 プラグをコンセントから抜く
電池は極性を正しく挿入する 電池を機器内に挿入する場合、極性表示に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	
指定以外の電池は使用しない また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
電池は、金属性の物と一緒に携帯、保管しない 電池は、金属性のボールペン、コイン、ヘアピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。	
電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてない 電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。	
長期間使用しない、交流100Vで使用のときは電池を取り出しておく 電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。	
電源を入れる前には音量を最小にする 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。	
樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない。また、タバコなどの火を近づけない 部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。	
長時間音が歪んだ状態で使わない スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。	
濡れた手で、電源コードを抜き差ししない 感電の原因となります。	
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。	
移動するときは、コード類を傷つけない 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。	
この機器に乗ったり腰掛けたりしない 特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。	
CD挿入口に異物を入れない 火災や感電の原因となることがあります。	
カセットテープ挿入口に、手をいれない 特にお子様にはご注意ください。けがの原因となることがあります。	
オーディオ機器、外部スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。	
1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。	

設置・使用上のご注意

- 本機の放熱孔をふさがないように上面、及び後面に10cm以上の空間を確保してください。
 - 本機を水滴または飛沫のかかる場所で使用しないでください。
 - 使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。
 - 本機を雑音発生の原因になる機器[※]の近くには設置しないでください。
- ※高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器など。

遮断装置について

- 本機は電源プラグが遮断装置になります。
- 本機は遮断装置へ容易に手が届くように、電源コンセントの近くで使用してください。

各部の名称と説明（後面）

（図はWA-352Dです。）

充電表示灯

別売ニカド蓄電池（WBT-2000）の充電中には赤色に点灯します。P7の別売ニカド蓄電池でご使用の場合の説明をご覧ください。

モノラル予備入力ピンジャック

（-22dBV 10kΩ 不平衡）
CDプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器の場合は両方のジャックに接続、モノラル機器の場合はいずれかのジャックに接続してください。

ハンドル

本機を移動させるときは、ハンドルを起こして持ち運んでください。移動時以外は、ハンドルをねかせておいてください。

ロッドアンテナ

ワイヤレスマイク受信用アンテナです。使用時は最長に伸ばしてください。

WA-352C/WA-352D

カセットデッキ部

P14～17のカセットデッキ部の説明をご覧ください。

WA-352

ブランクパネル

（カセットデッキユニット取付部）
別売のカセットデッキユニットを組み込みます。カセットデッキユニットの取扱説明書をご覧ください。

WA-352D

CDプレーヤー部

P18～23のCDプレーヤー部の説明をご覧ください。

WA-352/WA-352C

ブランクパネル

（CDプレーヤーユニット取付部）
別売のCDプレーヤーユニットを組み込みます。CDプレーヤーユニットの取扱説明書をご覧ください。

収納部ふた

P5の収納部の説明をご覧ください。

コード通し穴

AC電源コード、外部スピーカー接続コード接続時はこの通し穴から引き出してください。

ふたストッパー

矢印（▽）の方向に押さえますと、収納ふたが開きます。

電源表示灯

本機の電源が入ると緑色に点灯します。また電池でご使用のときは、電池が消耗すると赤色に点灯しますので、新しい電池と交換してください。

電源スイッチ

アンプの電源を「入」「切」するときに押します。

予備音量調節つまみ

モノラル予備入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節してください。

マイク音量調節つまみ

本機のマイク入力ジャックに接続されたマイクロホンの音量を調節してください。

音質調節つまみ

右まわりで高音が強調され、左まわりで減衰されます。中心のクリック位置がフラットです。すべての入力に共通して音質調節がおこなえます。

マイク入力ジャック

（-56dBV 600Ω 不平衡）
有線マイクのプラグを接続してください。

ライン出力ジャック

（0dBV 1kΩ 不平衡）
カセットデッキ（録音用）や増設アンプなどを接続してください。

ワイヤレスチューナー部

出荷時は、グループ/チャンネル番号「C11」に設定されています。グループ/チャンネル番号の変更をされる場合はP8のチューナー部の説明をご覧ください。

ブランクパネル

（ワイヤレスチューナーユニット取付部）
別売のワイヤレスチューナーユニットDU-3200A、または入力ユニットEU-300を増設される場合は、ブランクパネルをはずしてください。
（P11の別売ユニットの取付方法をご覧ください。）

各部の名称と説明（収納部）

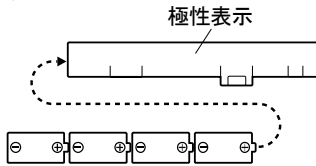
乾電池収納部

本機を乾電池で使用する場合は、単一乾電池 (R20P) 8本を入れてください。
(P6の乾電池の入れかたをご覧ください。)

乾電池収納パイプ (2本)

本機を乾電池で使用する場合は、それぞれのパイプに単一乾電池 (R20P) 4本を極性表示に従って入れてください。
(P6の乾電池の入れかたをご覧ください。)

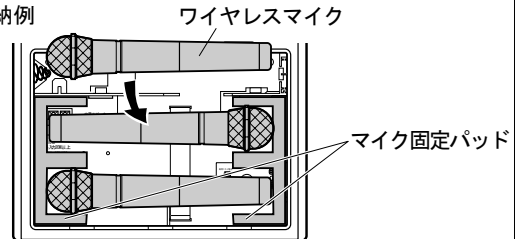
■乾電池収納パイプ



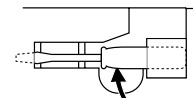
マイク固定パッド (付属品)

マイクロホンなどを収納するときに下図のように装着してください。下図のようにワイヤレスマイク (WM-3000A) を3本 (上段2本、下段1本) まで収納することができます。収納したマイクロホンは収納マイク固定ベルトでしっかり固定し、輸送時の衝撃から保護してください。ただし別売ニカド蓄電池 (WBT-2000) 取付時はこのパッドを装着できません。

■マイク収納例



ワイヤレスチューナー設定用ドライバー



この部分を引き上げてドライバーをはずす
(P8の周波数の設定のしかたをご覧ください。)

サーキットブレーカー

異常発生時は飛び出した状態 (■) になります。押し込む (←) と復帰しますが、再び異常状態になるときは販売店に修理をご依頼ください。

AC電源コード

AC100Vコンセントに接続してください。収納部ふたの穴からコードを引き出してください。

蓄電池取付穴

(P7のニカド蓄電池で使用的場合をご覧ください。)

収納マイク固定ベルト

マイクロホン収納時に固定してください。

蓄電池接続コネクタ

別売ニカド蓄電池WBT-2000を接続してください。(P7のニカド蓄電池で使用的場合をご覧ください。)

外部スピーカー接続端子

外部スピーカーを接続してください。スピーカー接続コードを下図の要領で接続してください。

内蔵スピーカー切換スイッチ

内蔵スピーカーを鳴らすか鳴らさないかを内蔵スピーカー切換スイッチで選択してください。

ON : 内部スピーカーを鳴らすとき

OFF : 内部スピーカーを鳴らさないとき

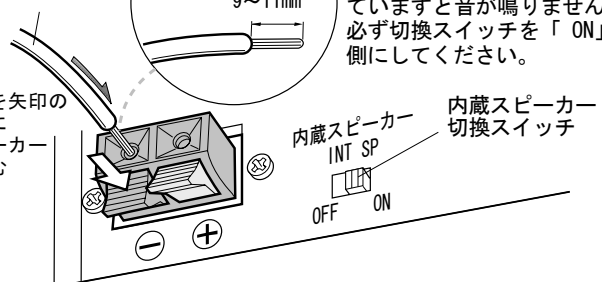
※外部スピーカーは定格入力が20W以上で、インピーダンスが8~16Ωのものを使用してください。

■適合電線 :
0.75mm²~2.0mm²
のより線

スピーカーコード

スピーカーコードの
末端処理方法
9~11mm

押しボタンを矢印の方向へいっぱい押しながらスピーカーコードを差し込む

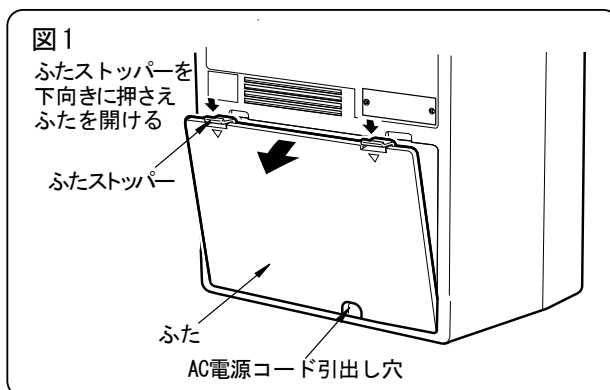


使用電源について

●本機はAC100V、乾電池 (R20P)、ニカド蓄電池 (WBT-2000) の3種類の電源が使用できます。下記の使用される電源の説明に従ってご使用ください。

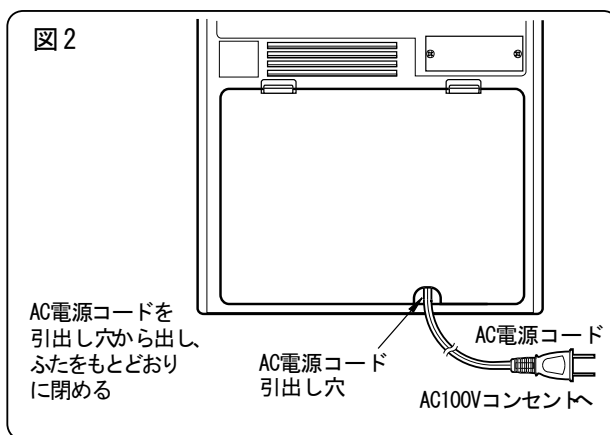
ふたを開ける

- ふたストッパーを下向きに押さえ、ふたを手前に開けてください。内部にAC電源コード、乾電池ホルダー、ニカド蓄電池収納部があります。(図1参照)



AC電源でご使用の場合

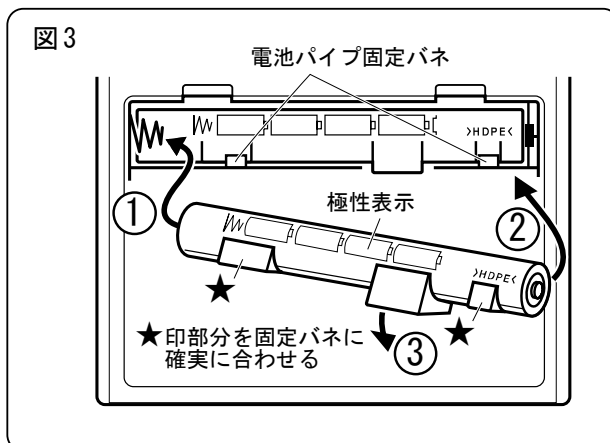
1. AC電源コードを取り出しACコンセントに差し込んでください。
2. AC電源コードを下部のAC電源コード引出し穴から出して、もとおりにふたを閉めてください。(図2参照)



乾電池でご使用の場合

(単一乾電池R20Pを8個ご準備ください)

1. 電池収納パイプの極性表示に従って、それぞれのパイプに単一乾電池 (R20P) 4本を入れてください。(図3参照)
 2. 電池収納パイプを図3の要領で乾電池収納部に挿入してください。
 3. もとおりにふたを閉めてください。
- 乾電池を内蔵している場合でも、ACコンセントに電源プラグを差込みますとAC100Vで動作します。またAC100Vコンセントに差込まない場合は、自動的に内蔵乾電池 (DC電源) で動作します。
 - 電源スイッチを切ったときは、電源表示灯が点滅しながら消えますが、異常ではありません。
 - できるだけアルカリ乾電池をご使用ください。



- ご注意** . ●本機に乾電池が入っているときは乾電池の飛び出しなどを防ぐために、必ずふたを閉めてください。
- 乾電池を交換するときは、必ず全部新品に交換してください。乾電池は必ず同じ種類のものをご使用ください。また乾電池の極性は+を間違えないようご注意ください。
- 長時間使用しない場合は乾電池を取り出しておいてください。乾電池をそのまま入れておきますと、乾電池の液もれで本機が使用不能になる恐れがあります。

別売ニカド蓄電池 (WBT-2000) でご使用の場合

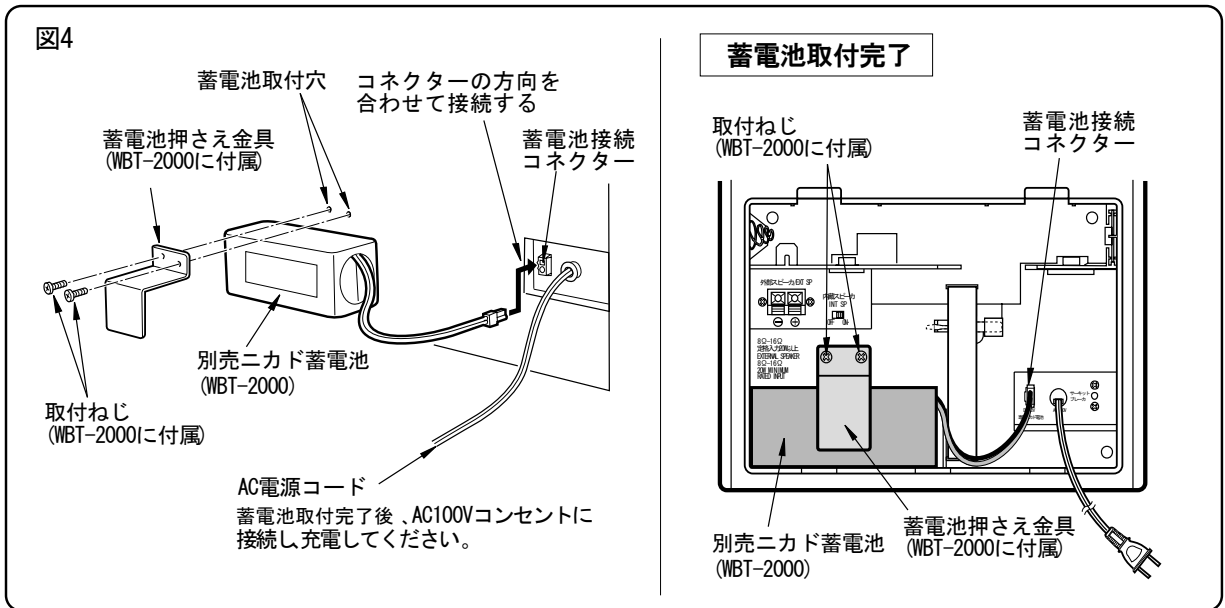
(別売ニカド蓄電池 WBT-2000をご準備ください)

蓄電池の取付のしかた

1. ニカド蓄電池を収納部左下部に蓄電池押さえ金具と取付ねじを使用し固定してください。(図4参照)
2. ニカド蓄電池のコネクターを本機の蓄電池接続コネクターに接続してください。コネクターは方向を合わせ、抜け止めのため完全にロックするまで差し込んでください。

ご注意 . . . ニカド蓄電池取付時は収納部にマイク固定パッドを装着できません。

◎お求めいただいたニカド蓄電池 (WBT-2000) は初期状態では充電されていません。下記の説明に従って充電をしてください。



ニカド蓄電池の充電のしかた

1. 本機のAC電源プラグをACコンセントに差し込んでください。充電が開始され充電表示灯が赤色に点灯します。

ご注意 . . . 充電中は電源スイッチを入れないでください。電源スイッチを入れますと、本機は動作状態になり充電ができません。

2. 約10時間(常温時)で充電が完了します。AC電源プラグをACコンセントから抜き取ってください。
3. AC電源コードを格納し、もとどおりにふたを閉めてください。

電池寿命の目安

品番	電池種類	アルカリ乾電池	ニカド蓄電池
WA-352		約15時間	約4時間
WA-352C		約10時間	約3時間
WA-352D		約3時間	約2時間

●上記の電池寿命は当社の試験条件(拡声6Wトーンバースト波、ワイヤレスチューナー 1ch使用時)で連続使用した場合の値です。大音量でCD再生など、ご使用の条件によっては著しく短くなることがありますのでご注意ください。また、電源表示ランプが緑色に点灯していても出力により音が途切れることがあります。このとき乾電池使用の場合は早めの交換を、ニカド蓄電池使用の場合は直ちに充電されることをお願いします。

ワイヤレスチューナー部の説明

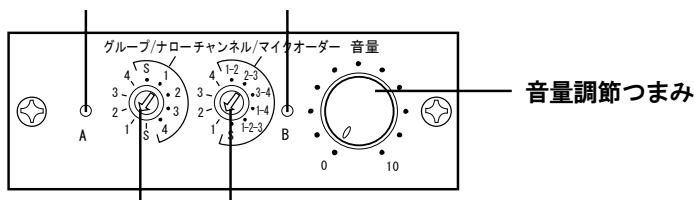
(各部の名称と説明)

アンテナ A 受信表示灯

本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時はアンテナA入力の電波が選択されると緑色に点灯し、選択されないときは赤色に点灯します。

アンテナ B 受信表示灯

本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時はアンテナB入力の電波が選択されると緑色に点灯し、選択されないときは赤色に点灯します。



グループ(GROUP)設定スイッチ

使用するワイヤレスマイクのグループ番号と同じ数字に設定してください。
(下記の周波数設定のしかたを参照)

チャンネル(CH)設定スイッチ

使用するワイヤレスマイクのチャンネル番号と同じ数字に設定してください。
(下記の周波数設定のしかたを参照)

周波数設定のしかた

- 本機は出荷時に、ワイヤレスチューナー部のグループ／チャンネル番号を「C11」に設定しています。周波数設定を切り換える場合は、付属の設定用ドライバー[※]を使用し、次の要領でおこなってください。(図5/6参照)

1. グループ番号を設定する

グループ(GROUP)設定スイッチの矢印を設定したいグループ番号に合わせます。(図 5参照)

2. チャンネル番号を設定する

次にチャンネル(CH)設定スイッチの矢印を設定したいチャンネル番号に合わせます。(図 6 参照)

- ※設定用ドライバーは本機後面収納部内の中央付近に固定されています。(P5の収納部の説明をご覧ください。)

図 5

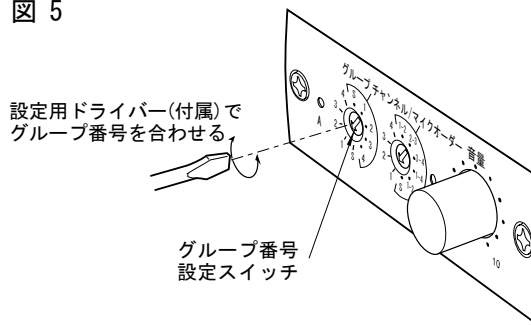
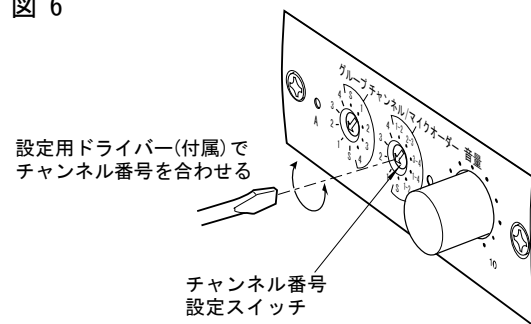


図 6



ご注意

アンテナ受信表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(9ページの受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。

ご注意

- 受信機とマイクは、同じ周波数(グループ及びチャンネル)に設定してください。
- 同時に使用するマイクは、全て同じグループにして、全て違うチャンネルに設定してください。(P9の受信周波数表を参照)
- 1ヶ所で同時に使用できるチャンネル数はP9の「グループ／チャンネル番号について」の項を参照してください。
- 同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクと本機の距離は約2m~10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。
- ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合は、マイクロホンうしは50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

300MHz帯ワイヤレスシステムについて

■グループ/チャンネル番号について

- 同一場所で、複数のマイクを同時に使用する場合は1つのグループに統一します。
(グループ1~4の中から1つのグループを選びます。)
- ・グループ1~3の中から1つのグループを選んでシステムを組めば、最大4波まで使用できます。
- ・グループ4は1波使用できます。
- 周波数一覧表にないグループ/チャンネル番号に設定すると、受信表示灯が点滅し受信できません。必ず周波数一覧表を見て設定してください。

受信周波数表→

周波数 (MHz)	グループ/チャンネル番号			
	グループ	グループ	グループ	グループ
322.025			C31	
322.050	C11			
322.075		C21		
322.100	C12			
322.125		C22		
322.150			C32	
322.250	C13			
322.275		C23		
322.300				C41
322.325			C33	
322.350	C14			
322.375		C24		
322.400			C34	

■チャンネル呼称について

図7 例 C 1 3

(a)300MHz帯を表わす
 (b)グループ(GROUP)番号を表わす
 (c)グループ内のチャンネル(CH)番号を表わす

■グループ/チャンネル番号の設定例

図8 使用するワイヤレスマイクのグループ/チャンネル番号が「C32」の場合

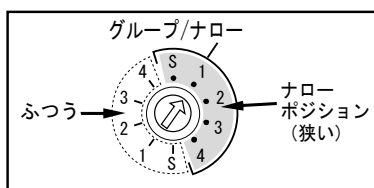
グループ/ナロー チャンネル/マイクオーダー

グループ設定スイッチの矢印を「3」の位置にまわす

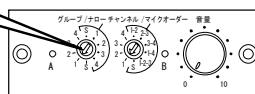
チャンネル設定スイッチの矢印を「2」の位置にまわす

ナローポジションについて

◆グループ設定スイッチを「ナロー」側でグループ番号を設定する場合。



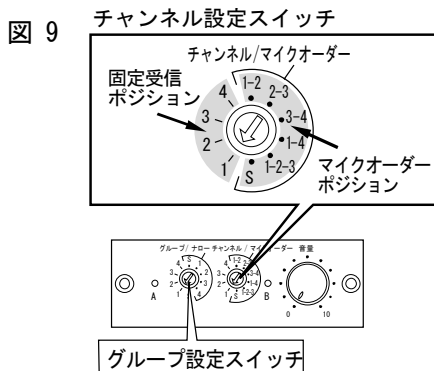
グループ設定スイッチ



- ・本機を使用中に、近隣で使用するワイヤレスマイクが混信するとき、または混信の恐れがあるときに設定してください。受信感度を抑え、混信を防ぐことができます。

マイクオーダーについて

- 本機は1本のマイクに対して専用のチャンネルを固定して受信する設定と、任意の複数チャンネルを選択して受信する「マイクオーダー」の設定が可能です。



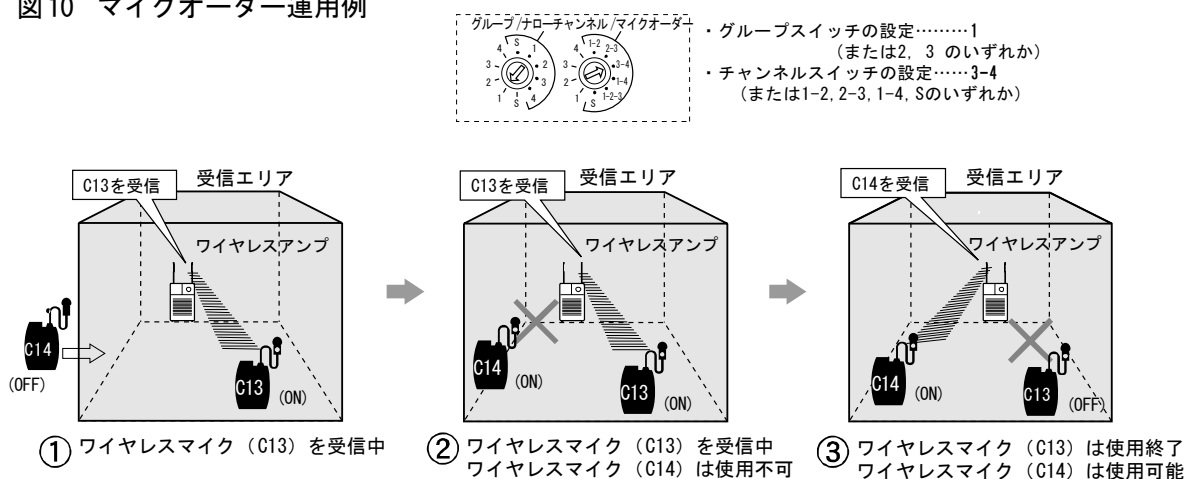
◆マイクオーダーのチャンネル組合せ表

グループ設定スイッチ チャンネル設定スイッチ	1	2	3	
マイクオーダー ポジション	1-2	C11 C12	C21 C22	C31 C32
	2-3	C12 C13	C22 C23	C32 C33
	3-4	C13 C14	C23 C24	C33 C34
	1-4	C11 C14	C21 C24	C31 C34
	1-2-3	C11 C12 C13	C21 C22 C23	C31 C32 C33
	S	C11 C12 C13 C14	C21 C22 C23 C24	C31 C32 C33 C34

◆「マイクオーダーポジション」とは？

- ・チャンネル設定スイッチをマイクオーダーポジションに設定しますと、グループ内の複数(2~4)チャンネルのワイヤレスマイクを受信することができます。(図9参照)
- ・最大4チャンネルの受信が可能です。最初に使用(電源スイッチ「ON」)したワイヤレスマイクのチャンネルを優先し、受信します。(図10参照)
- ・受信中マイクの使用が終わり(電源スイッチ「OFF」)次第、設定されたチャンネルのマイクが受信可能になります。(図10参照)
- ・受信可能なチャンネルの組み合わせは上記のマイクオーダーのチャンネル組合せ表をご覧ください。またグループの設定は「1、2、3」のいずれかに設定してください。「4/S」には設定しないでください。

図10 マイクオーダー運用例



- ご注意.**
- 別売ワイヤレスチューナーユニット組込時にマイクオーダーポジションでチャンネルを設定する場合は、両チューナーのチャンネル番号が互いに重複しないようにご注意ください。
 - ・チャンネル番号が互いに重複する組合わせ例：「1/1-2」「2/2-3」「1-2/2-3」「2-3/3-4」など
 - ・正しいチャンネル番号組合わせ例：「1/2-3」「2/1-4」「3/1-2」「1-2/3-4」「2-3/1-4」など(必ずチャンネル番号が互いに重複しない組合わせでご使用ください。)

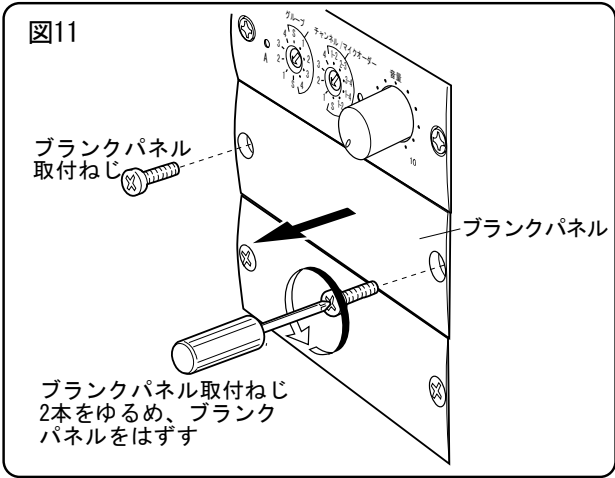
別売ユニットの取付方法

●本機は別売のワイヤレスチューナーユニットDU-3200A、または入力ユニットEU-300を合計2台組み込むことができます。取付は販売店または、最寄りのユニパック営業所にご相談ください。

1. ブランクパネルをはずす

本機のblankパネルをはずし、blankパネルの裏側には4Pコネクタと同軸コネクタが差し込まれていますので、それらのコネクタをblankパネルからはずしてください。

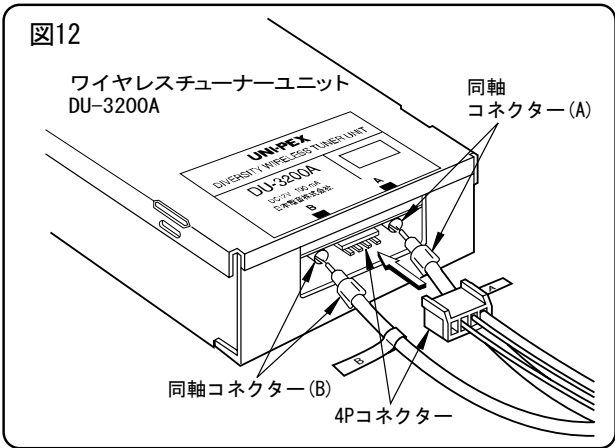
警告 ご使用中は、感電の恐れがありますので、取付作業をおこなわないでください。作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。



2. 各コネクタをワイヤレスチューナーユニットに接続する

はずした4Pコネクタと同軸コネクタをワイヤレスチューナーユニット後面にある各コネクタにしっかりと接続してください。同軸コネクタは必ず、同じ表示(A・B)のものと同軸コネクタに接続してください。(図12参照)

入力ユニットEU-300を取り付けの場合
説明図はDU-3200Aですが、EU-300を取り付けの場合も同様に取り付けてください。取付ユニットの取扱説明書も合わせてご覧ください。

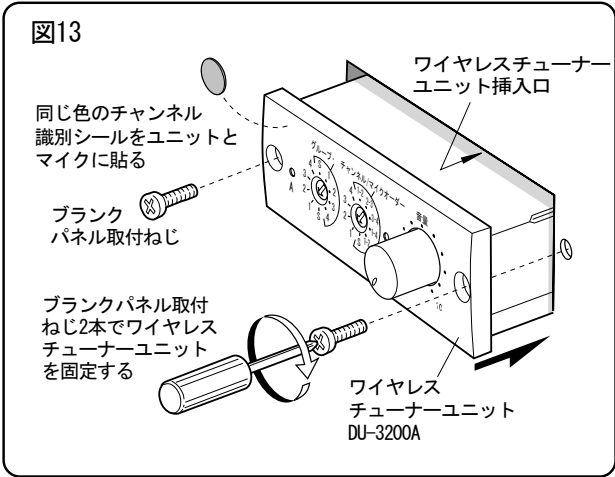


3. ワイヤレスチューナーユニットを組み込む

ワイヤレスチューナーユニットを本機のワイヤレスチューナーユニット挿入口に挿入し、blankパネルを取り付けたあつた2本のねじで固定してください。(図13参照)

付属のチャンネル識別シールについて

- 設定したチャンネルをわかり易くするために複数チャンネルのワイヤレスマイクを容易に識別するために、同じチャンネルのワイヤレスマイクとチューナーユニットに、それぞれ同じ色のチャンネル識別シール(付属)を適当な位置に貼り付けてください。



ご注意 ・blankパネルから4Pコネクタをはずす際には、必ずパネル側のロックのツメをはずしてから取りはずしてください。またチューナーユニット挿入時には、接続コードをはさみ込まないようにご注意ください。

操作のしかた

ワイヤレスマイクの使い方

⚠ 注意 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

2. ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にする

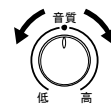
アンテナA受信表示灯、またはアンテナB受信表示灯のいずれかを選択された表示灯が緑色に点灯します。

電源スイッチを「ON」する



4. 音質を調節する

ワイヤレスマイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



すべての入力に共通して音質が調節されます。

3. ワイヤレスマイクの音量を調節する

ワイヤレスマイクの音量をワイヤレスチューナー部の音量調節つまみで調節してください。

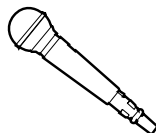


有線マイクの使い方

2. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

1. マイクプラグをマイク入力ジャックに接続する



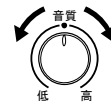
3. マイクの音量を調節する

マイクの音量をマイク音量調節つまみで調節してください。



4. 音質を調節する

マイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



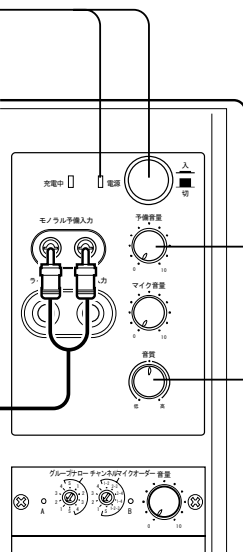
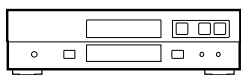
すべての入力に共通して音質が調節されます。

予備入力に接続されたCDプレーヤーなどの放送をするとき

2. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

1. CDプレーヤーなどの接続プラグを予備入力ピンジャックに接続する



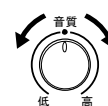
3. 音量を調節する

音量を予備音量調節つまみで調節してください。



4. 音質を調節する

CDプレーヤーの演奏などの音質を音質調節つまみで調節してください。



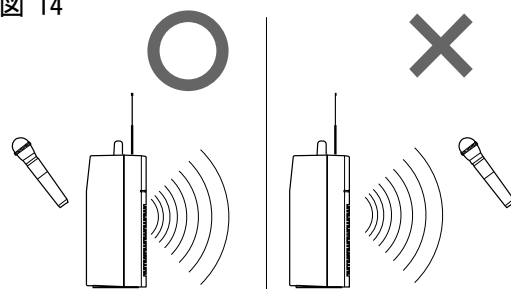
すべての入力に共通して音質が調節されます。

- ご注意.**
- 電源コードやその他の接続コードが正しく接続されているか確認してください。
 - 各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。

ハウリングとデッドポイントについて

- ワイヤレスマイクや有線マイクをスピーカーの真正面近くで使用したり、音量を上げすぎたりすると「キーン」というハウリングが起きます。ハウリングが起きた場合は、ただちに音量を下げるか、マイクの位置をスピーカーの方向からそらすと止まります。(図14参照)
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用していると、突然音がなくなる位置があります。これをデッドポイントといい、ワイヤレスマイクと本機内蔵アンテナの位置と壁、障害物などの位置関係により生ずるもので故障ではありません。本機の位置、あるいはワイヤレスマイクの位置を変えらるとなおります。

図 14



カセットデッキ部の説明 [WA-352D・WA-352C]

■各部の名称と説明

録音ボタン

このボタンを押しますと録音可能な走行方向を確認する動作をした後、録音待機状態となり、録音ボタン上部の録音表示灯（赤）が点灯します。また再生ボタン上部の走行表示灯（緑）が録音可能方向のみ点滅します。録音したい方向の再生ボタンを押した時点で録音が始まります。（P15の録音のしかたをご覧ください。）

カセットホルダー

必ず「PUSH」マーク部を押して確実に閉めてください。

テープカウンター

録音時このカウンターの数字をメモしておくことで録音開始時や希望位置をさがしやすくなります。

リセットボタン

このボタンを押しますとテープカウンターの数字が“000”に戻ります。

取出しボタン

このボタンを押しますとカセットホルダーが開きテープの挿入、取り出しができます。

ご注意

停止ボタンを押してテープの動作を止めてから押してください。

テープ音量調節つまみ

カセットデッキの音量を調節してください。

テープスピード調節つまみ

カセットテープの再生速度を調節してください。（可変範囲 ±18%）速度調節は再生時のみ可能です。録音時の速度調節はできません。

テープ走行モード選択スイッチ

テープの走行モードを選択するスイッチです（⇒⇄⇐）の3つのモードから1つ選択します。P17の走行モードについてをご覧ください。

停止ボタン

録音、再生、早巻き中のテープを止めるときに押します。

早巻きボタン

このボタンを押しますと矢印の方向にテープが早巻きされます。
（⇐ または ⇒）再生中にこのボタンを押しますと頭出しができます。P16の一曲頭出しのしかたをご覧ください。

一時停止ボタン(ポーズボタン)

このボタンを押しますと録音、再生中でもその間テープを止めることができ、一時停止ボタン上部の一時停止表示灯（橙）が点灯します。このボタンを再び押しますと録音、再生が再開されます。

再生ボタン

このボタンを押しますと、矢印の方向に再生を開始し、再生ボタン上部の走行表示灯（緑）が点灯します。

■録音レベルについて

録音レベルの調節は録音する入力または機器側の各々の音量調節つまみで設定します。

ある程度の音量で放送しているときに放送内容を録音する場合は問題ありませんが、音量を小さくして録音しますと録音レベルが不足し、再生音量が小さくなることがあります。

特に本機を録音のみの目的で使用するときは、本機の音量調節つまみはなるべく中央付近になるように設定してください。また、本機収納部の内蔵スピーカー切換スイッチを「OFF」側に切り換え、内蔵スピーカーを鳴らさないで録音することをお勧めします。

ご注意 DC電源（乾電池またはニカド蓄電池）で使用中の電圧低下、及びメカに異常が発生しますと走行表示灯と録音表示灯、一時停止灯が交互に点灯しカセットは動作しません。またテープ走行中に電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたり、電池の電圧が異常に低下した場合、カセットテープが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、ACプラグをコンセントに差すか、新品の乾電池と交換または蓄電池を満充電にして電源スイッチを入れてカセットテープを取り出してください。

⚠ 注意 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

再生のしかた

2. テープを挿入する

取出しボタンを押してカセットホルダーを開き、テープを挿入後、カセットホルダーの「PUSH」マーク部を押して閉めてください。

7.

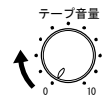
再生を止めるときに、停止ボタンを押します。

4. 再生ボタンを押す

正方向に再生する場合は▶ボタンを押します。逆方向に再生する場合は◀ボタンを押します。テープが再生を開始し、走行表示灯が点灯します。

5. 音量を調節する

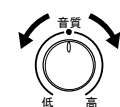
音量をテープ音量調節つまみで調節してください。



1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

6. 音質を調節する



音質を音質調節つまみで調節してください。

3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。(P17の走行モードについてをご覧ください。)

録音のしかた

録音レベルの調節は録音する入力または機器側の各々の音量調節つまみで設定します。

2. テープを挿入する

取出しボタンを押してカセットホルダーを開き、テープを挿入後、カセットホルダーの「PUSH」マーク部を押して閉めてください。

8.

録音を止めるときに、停止ボタンを押します。

5. 録音ボタンを押す

録音ボタンを押しますと録音可能な走行方向を確認する動作をした後、録音表示灯が点灯、録音可能な方向の走行表示灯が点滅して録音待機状態となります。カセットテープの誤消去防止つめが折られている場合は、その方向の走行表示灯は点滅しません。
注)録音可能な走行方向の確認動作中は「EJECT」ボタンを押さないでください。また走行表示灯が点滅していない方向の再生ボタンを押しても録音はできません。

6. 再生ボタンを押す

録音を開始したい方向の再生ボタンを押してください。走行表示灯が点灯し、録音待機状態となります。

1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。(P17の走行モードについてをご覧ください。)

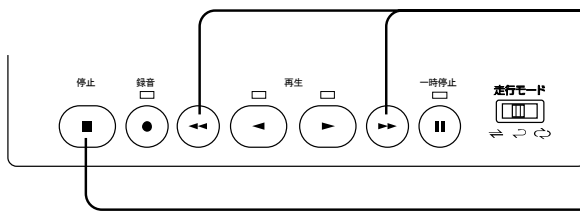
4. 一時停止ボタンを押す

一時停止ボタンを押します。一時停止表示灯が点灯します。

7. もう一度一時停止ボタンを押す

一時停止ボタンを押します。一時停止表示灯が消え、録音を開始します。

早巻きのしかた

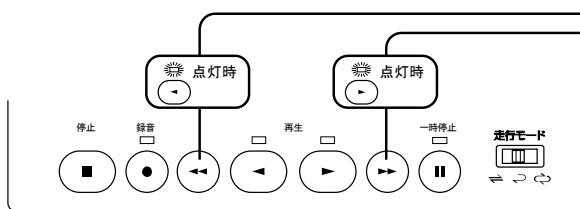


1. 矢印の方向の早巻きボタンを押すと、その方向の早巻きをします。

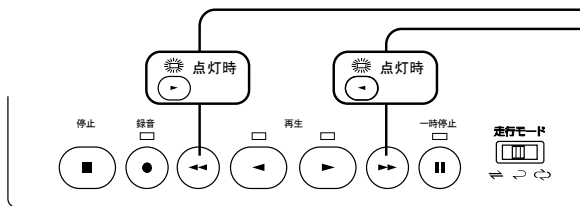
2. 停止ボタンを押すと早巻きが解除されテープが止まります。

一曲頭出し(自動選曲)のしかた

●一曲頭出し(自動選曲)とは、録音されている曲間の無録音部分を自動的に検出して、曲の始めから再生する機能です。



1. 今聞いている曲の次の曲の頭出しをする場合再生している方向と同じ矢印の方向の早巻きボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。次の曲の始めのところで早巻きが解除され再生状態となります。



2. 今聞いている曲の頭出しをする場合再生している方向と反対の矢印の方向の早巻きボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。その曲の始めのところで早巻きが解除され再生状態となります。

頭出しで再生待機状態にするには

再生中に一時停止ボタンを押して再生待機状態にしてから、上記の1又は2の操作を行ってください。

一曲頭出しの録音のしかた

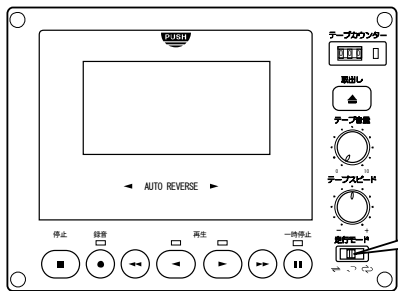
●一曲頭出し再生をするためには曲と曲の間に3秒以上の無録音部分が必要です。

ご注意. ◎次のような録音状態のテープは頭出しが正常に動作せず、曲の頭でテープが止まらなかったり、曲の途中で止まったりしますので特にご注意ください。

- 曲と曲の間に会話や雑音が入っている……………止まらない
- 曲と曲の間の無録音部分が短い(3秒以下)……………止まらない
- 曲の途中に3秒以上の途切れがある……………曲の途中で止まる
- 弱音の多い音楽や、録音レベルが低いもの……………止まったり、止まらなかったり

走行モードについて

●テープの走行モードとして、再生で3モード、録音2モードの中から一つ選択することができます。



1. 「→」一方向モード

正方向(▶)、逆方向(◀)のいずれでも、現在走行している方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止するモードです。



2. 「↔」往復モード

正方向(▶)で再生(又は録音)をしている場合テープエンドで一度反転し逆方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止するモードです。逆方向から再生(又は録音)を開始した場合はその方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止します。

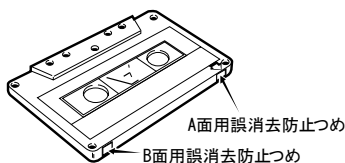


3. 「↻」エンドレスモード

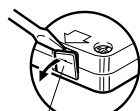
再生時に走行方向のテープエンドで反転を繰り返し連続して再生を繰り返します。録音時は往復モードと同じ動作となります。

■カセットテープについて

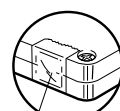
録音されたテープを誤って消さないために



誤消去を防止するには

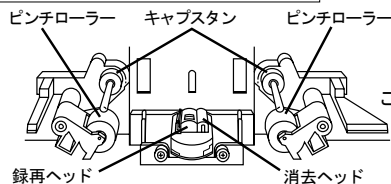


再び録音したいときは



- 貴重な録音を誤って消さないためにカセットテープには誤消去防止つめが各面用に各1個ついています。このつめを折り取っておきますと、テープデッキの誤消去防止装置が働いて再録音はできませんので安心です。
- つめを折り取ったカセットテープを再び録音したいときはセロテープなどでつめの穴の上にはってください。再録音が可能になります。

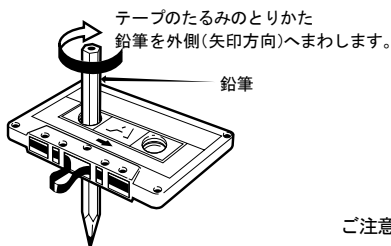
デッキのお手入れのしかた



ご注意.....

- ① 取出しボタンを押し、カセットホルダーを開きます。
 - ② 下方にピンチローラー、キャプスタン、録音/再生ヘッド、消去ヘッドが見えます。
 - ③ 綿棒又はやわらかい布でヘッド面やキャプスタン、ピンチローラーを拭き、汚れを取り除きます。汚れのひどいときは、綿棒又は布に少量のアルコールを浸して拭き取ってください。
- ヘッド部にドライバ、ペンチなどの鉄類や磁気類を近づけないでください。ヘッドが磁気を帯びますと録音時の雑音の原因になります。
 - ヘッドの清掃は力を入れなくてください。
 - 本機に注油しますと故障の原因になります。絶対に注油しないでください。

テープのたるみについて



- カセットテープをデッキに入れる前にテープがたるんでいないことを確かめてください。もし、たるんでいたなら六角形の鉛筆などで左図のようにして、たるみをとってください。たるんだまま使用しますとテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしてテープを傷つけることがあります。
 - カセットテープのリールを手で回してテープをたるませることも絶対しないでください。
 - テープの巻きが強いときや、巻むらがあるときは、一度早送り又は巻戻しをしてからご使用ください。
 - 高温、多湿の所や磁気のある所(テレビやスピーカーの近くなど)を避けて保管してください。(テープの最適保管条件は湿度50%、気温24℃といわれています)
 - ホコリの多い所での保管はプラスチックケースなどに収めてください。
- ご注意..... ●C-120タイプ(120分用)のカセットテープは、ちょっとした不注意でテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしますのでご使用にならないでください。

エンドレステープの使用について

- エンドレステープはテープが巻き込み、故障の原因になりますのでご使用にならないでください。

著作権法について

- あなたが放送やレコード、その他の録音物から録音したものや、他人の講演などを録音したものは、個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 放送コード、レコード、その他の録音物や他人の演奏などは、音楽の歌詞・楽曲と同じく著作権法により保護されています。従って、個人使用の範囲を超えて、それらをテープに録音して、販売・レ

ンタル・譲渡したり、営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

- 詳しい内容や、著作権物に関する許諾のための手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC)の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

CDプレーヤー部の説明 [WA-352D]

(各部の名称と説明)

スキップ/サーチボタン (アップ)

曲 (TRACK) の送り選択をするときに押します。演奏中、このボタンを押し続けると (0.5秒以上) 曲を早送りします。

スキップ/サーチボタン (ダウン)

曲 (TRACK) の戻り選択をするときに押します。演奏中、このボタンを押し続けると (0.5秒以上) 曲を早戻しします。

再生/一時停止ボタン

CDの演奏を始めるときに押します。演奏を一時停止 (ポーズ) するときはこのボタンを押します。

停止/取出しボタン

演奏を停止するときには押します。CDを取り出すときは停止中にこのボタンを押します。

CD音量調節つまみ

CDの音量を調節するときには使用します。

スピード調節つまみ

CDの演奏スピードを調節するときには使用します。

ディスク挿入口

CDを挿入します。

ディスプレイ

操作または動作状態を表示します。下記説明をご覧ください。

リピートボタン

リピート演奏をするときに押します。押すたびに「1曲リピート」→「全曲リピート」→「解除」と切り替わります。

時間表示切換ボタン

演奏時間の表示を切り換えるときに押します。押すたびに「曲の経過時間」→「曲の残り時間」→「総残り時間」と切り替わります。

プログラムボタン

プログラム演奏のプログラム内容を設定するときには押します。

A-Bリピートボタン

A-Bリピート演奏の開始点と終了点を設定するときには押します。

(ディスプレイ部の名称と説明)

ディスプレイのバックライトは停止状態、CD未挿入状態が15分継続すると消灯します。

再生表示

演奏状態のときに点灯。

演奏時間表示

演奏中の曲、またはCD全曲の経過時間及び残り時間の目安を表示。

トラック表示

演奏中の曲 (トラック) 番号を表示。

演奏時間表示 (分:秒)

CDの経過または残り時間を表示。演奏スピード調節時は調節値 (±15%) を表示。

演奏スピード調節表示



CDの演奏スピード調節中は「SPEED」と、調節状態「+」「-」を表示。調節値は演奏時間表示に点灯。

一時停止表示

一時停止状態のときに点灯。

リピート表示

リピート演奏のときに点灯。

 :1曲のみリピート演奏
 ALL :全曲リピート演奏

A-Bリピート表示

A-Bリピート演奏のときに点灯。

プログラム表示

プログラム演奏のときに点灯。

演奏時間モード表示

時間表示切換ボタンを押しますと下表の順に表示が切り換わります。

演奏時間モード表示	演奏時間表示の内容
ELAPSED	演奏中の曲の経過時間
SINGLE REMAIN	演奏中の曲の残り時間
TOTAL REMAIN	CD全曲の残り時間

操作のしかた

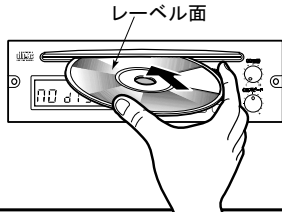
再生のしかた

注意 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

1. 電源を入れる

□本機の電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

2. CD挿入口にCDを入れる

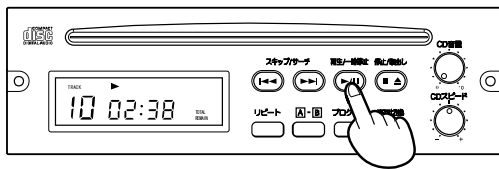


□レーベル面を上にしてCDを入れると、トータルトラック及び全演奏時間を表示し停止状態になります。

◇すでにCDが入っているときは、“TRACK”が点灯しています。CDは入れられませんので、無理に入れしないでください。
◇シングルCD(8cm CD)は使用できません。
◇CD-R、CD-RWなどに書き込まれた音楽データについては、正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

3. 再生/一時停止ボタンを押す

□再生/一時停止ボタンを押すたびに再生/一時停止を繰り返します。



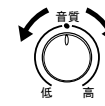
4. 音量を調節する

□CD音量調節つまみを適当な位置に調節してください。



5. 音質を調節する

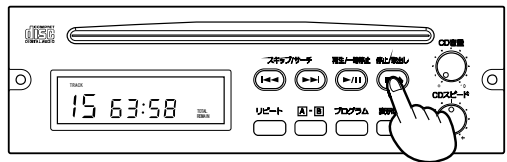
□音質を音質調節つまみで調節してください。



CDを取り出すには

停止/取出しボタンを押す

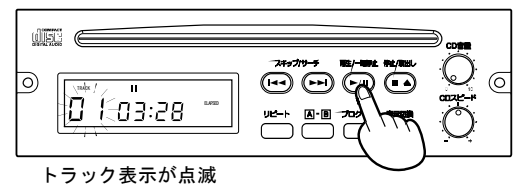
□停止中に停止/取出しボタンを押しますとCDが出てきます。演奏中の場合は停止/取出しボタンを押して演奏を停止してから、もう一度押してCDを取り出してください。



演奏を一時停止（ポーズ）するには

再生/一時停止ボタンを押す

□演奏中に再生/一時停止ボタンをおしますと演奏が止まります。再度押しますと再生します。

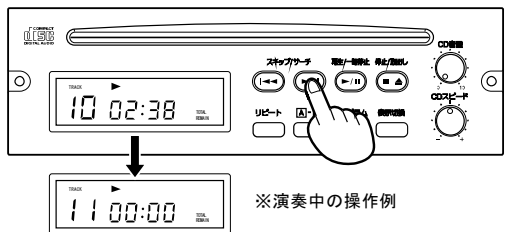


曲を選ぶには

●次の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタンを押す

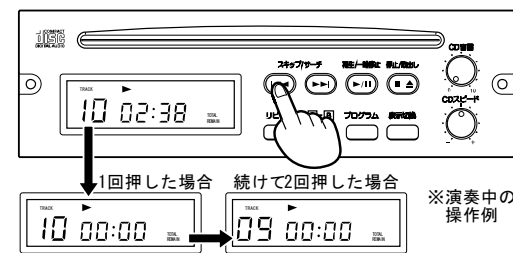
□演奏中にスキップ/サーチボタン [▶▶▶] を押すと次の曲の頭に移動し、演奏を開始します。停止中に押すと次の曲番号に表示が換わります。



●前の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタンを押す

□演奏中にスキップ/サーチボタン [◀◀◀] を押すと演奏中の曲の頭に戻り、演奏を開始します。続けて2回押すと前の曲の頭に移動し、演奏を開始します。停止中に押すと前の曲番号に表示が換わります。

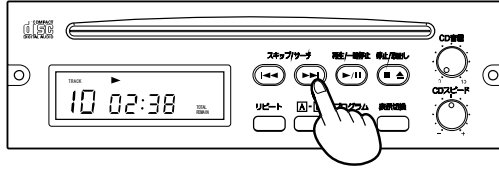


早送り／早戻しするには

●曲を早送りするには

スキップ/サーチボタンを押し続ける

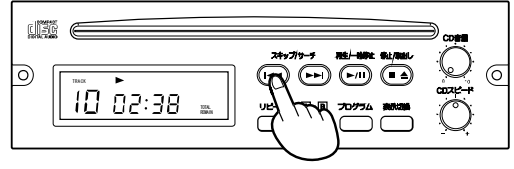
□0.5秒以上押し続けると早送りし、離すとその位置から演奏を開始します。



●曲を早戻しするには

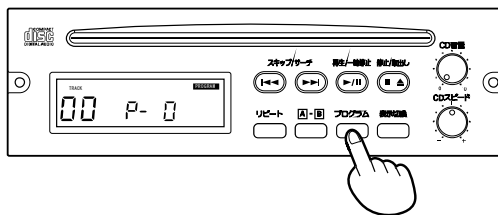
スキップ/サーチボタンを押し続ける

□0.5秒以上押し続けると早戻しをおこない、離すとその位置から演奏を開始します。



プログラム演奏をするには(演奏する曲と曲順を自由に設定する)

① 停止中にプログラムボタンを押す

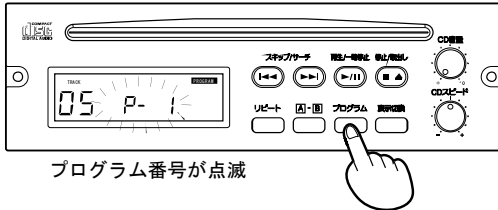


② スキップサーチボタンを押してプログラムしたい曲番を表示させる。



③ プログラムボタンを押して曲番を登録する

②③を繰り返し最大32曲までプログラムすることができます。



④ 再生/一時停止ボタンを押す

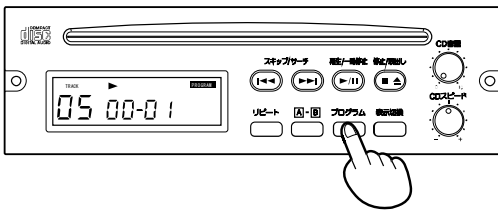
プログラムした曲順で演奏します。



● プログラム内容を確認するには

登録後、プログラムボタンを押す

上記の③で登録後プログラムボタンを押すとプログラム内容を確認することができます。

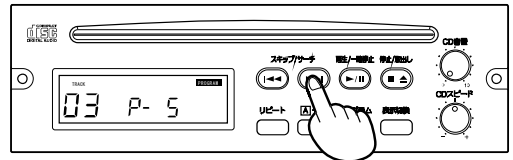


● プログラム内容を変更するには

① 登録後、プログラムボタンを押す

左記のプログラム内容を確認する要領で変更したいプログラム番号を選択します。

② スキップサーチボタンを押して変更したい曲番を表示させる。

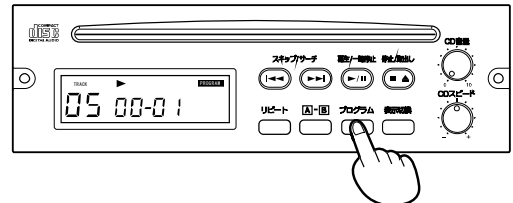


● プログラム内容を解除するには

プログラム演奏中にプログラムボタンを押す

□ディスプレイの“PROGRAM”が消えて、演奏している曲から通常の演奏になります。

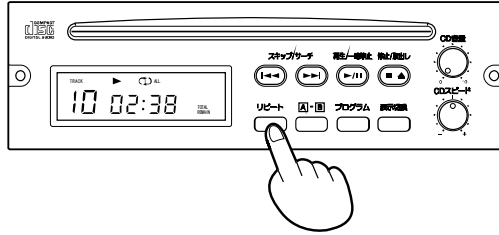
③ プログラムボタンを押して曲番を登録する



1曲または全曲を繰り返し聴くには(リピート演奏)

リピートボタンを押す

□押すたびに → ALL → 無表示の順に変わります。



	1曲リピート (今演奏している曲を繰り返し演奏します。)
	全曲リピート (CD全曲を繰り返し演奏します。)
	リピート解除 (CDの最後の曲まで演奏します。)

◇リピート演奏について

- ・演奏中の曲または、CD全曲を繰り返し演奏します。

指定した部分を繰り返し聴くには(A-Bリピート演奏)

注意) リピート演奏中、またはプログラム演奏中にこの設定はできません。

●A-Bリピート演奏設定例

A-Bリピート演奏区間

◆4曲目の指定した部分を繰り返し演奏

CK 3	TRACK 4	TRACK 5	TRACK 6	TRACK 7	TRACK 8
	A	B			

◆6曲目の頭から8曲目の途中までを繰り返し演奏

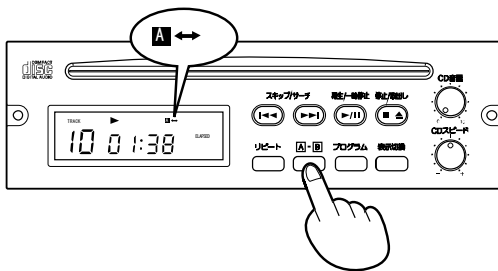
CK 3	TRACK 4	TRACK 5	TRACK 6	TRACK 7	TRACK 8
			A		B

◇A-Bリピート演奏について

- ・演奏中のCDの指定した部分を繰り返し演奏します。(指定できる部分は連続する1区間のみ)

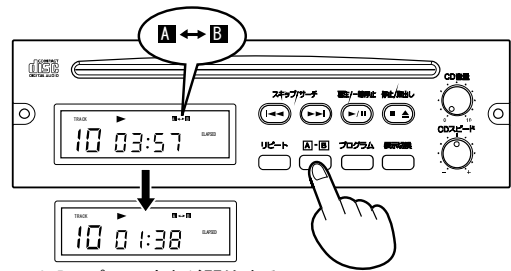
・A-Bリピートボタンを押す (開始点の設定)

演奏中、繰り返ししたい部分の開始点でA-Bリピートボタンを押します。



・A-Bリピートボタンをもう一度押す (終了点の設定)

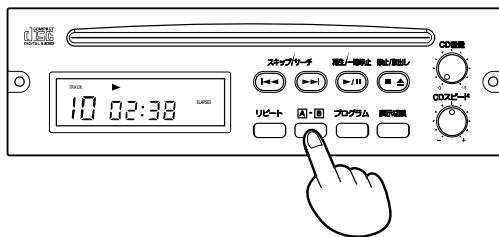
繰り返したい部分の終わりでA-Bリピートボタンを押します。その後、その区間の繰り返し演奏が開始します。



●A-Bリピート演奏を解除するには

A-Bリピート演奏中にA-Bリピートボタンを押す

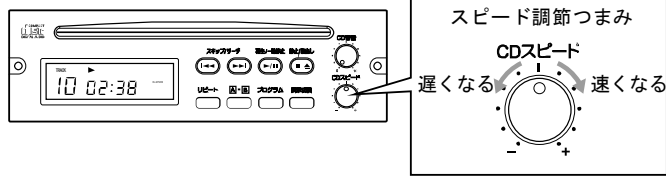
ディスプレイの“A-B”が消えてA-Bリピートは解除され、通常の演奏に戻ります。



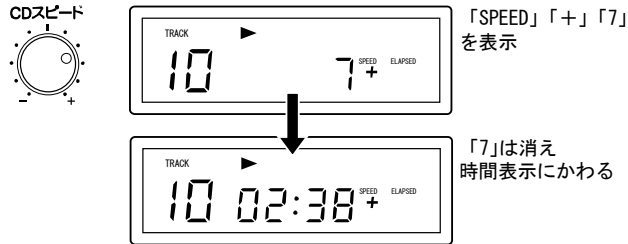
演奏スピードを調節するには(CDスピード調節)

再生中にスピード調節つまみをまわす

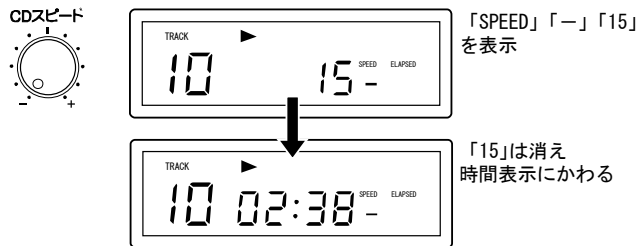
□再生中、スピード調節つまみをまわし、演奏スピードを調節します。



例1)演奏スピードを速く(約7%)調節



例2)演奏スピードを遅く(約15%)調節



◇CDスピード調節について

・CDの演奏スピードを±15%の範囲で調節します。

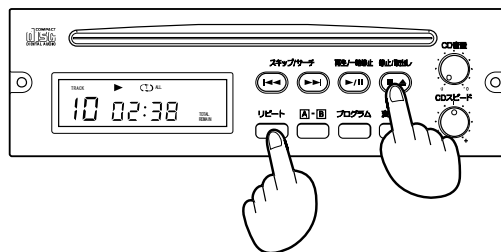
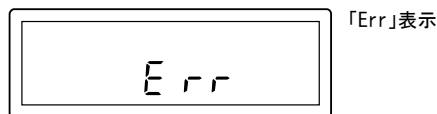
◇メモ

・スピード調節と同時に音程も変化します。

Err(エラー)表示の状態を解除できない場合

停止/取出しボタンとリピートボタンを同時に3秒以上押し続ける

□停止/取出しボタンとリピートボタンを同時に3秒以上押し続け、エラー状態を解除してください。



◇エラー表示 (Err)について

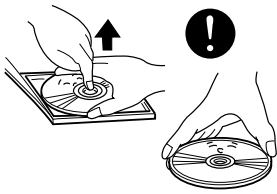
・CDプレーヤーになんらかの原因により異常が発生した場合、Err(エラー)が表示され操作することができなくなります。

◇お願い

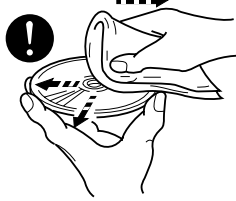
・エラーを解除しても、再びErr(エラー)が表示する場合は電源スイッチを切り、販売店などへご連絡ください。

コンパクトディスクの取扱いについて

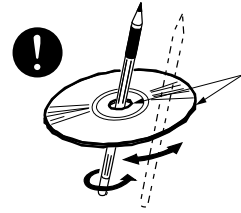
コンパクトディスクの取扱かた



- 保護ケースからコンパクトディスクを取り出す場合、図のようにケース中心部を押し、コンパクトディスクの両端を持ってください。また、ディスク面には直接手を触れないようにしてください。

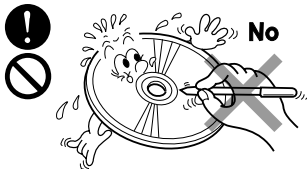


- コンパクトディスクを拭く場合は、乾いた柔らかい布で図のように、中心から外に向かって拭いてください。

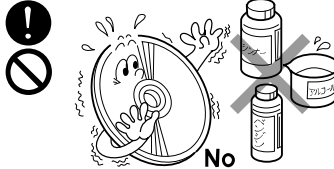


- 新しいディスクには、ディスクの周囲に“バリ”が残っていることがあります。このようなディスクをご使用になると、動作しなかったり音飛びの原因となります。バリのあるディスクは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。

コンパクトディスク使用上の注意



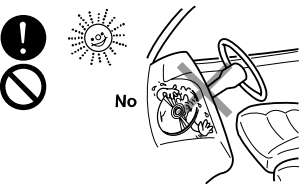
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどでキズをつけたりしないでください。



- コンパクトディスクは、きれいなものをご使用ください。もし、汚れている場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは絶対に使用しないでください。



- 大きいキズ、変形、ヒビなどがあるコンパクトディスクは使用しないでください。誤動作や故障の原因となる場合があります。



- コンパクトディスクは熱に弱いので、直射日光のあたる場所やヒーターなどの近くに置かないでください。

⚠ 注意

市販のCD保護シートや、スタビライザーなどを装着したディスクは使用しないでください。メカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクを傷つける場合があります。

ご使用になる前に

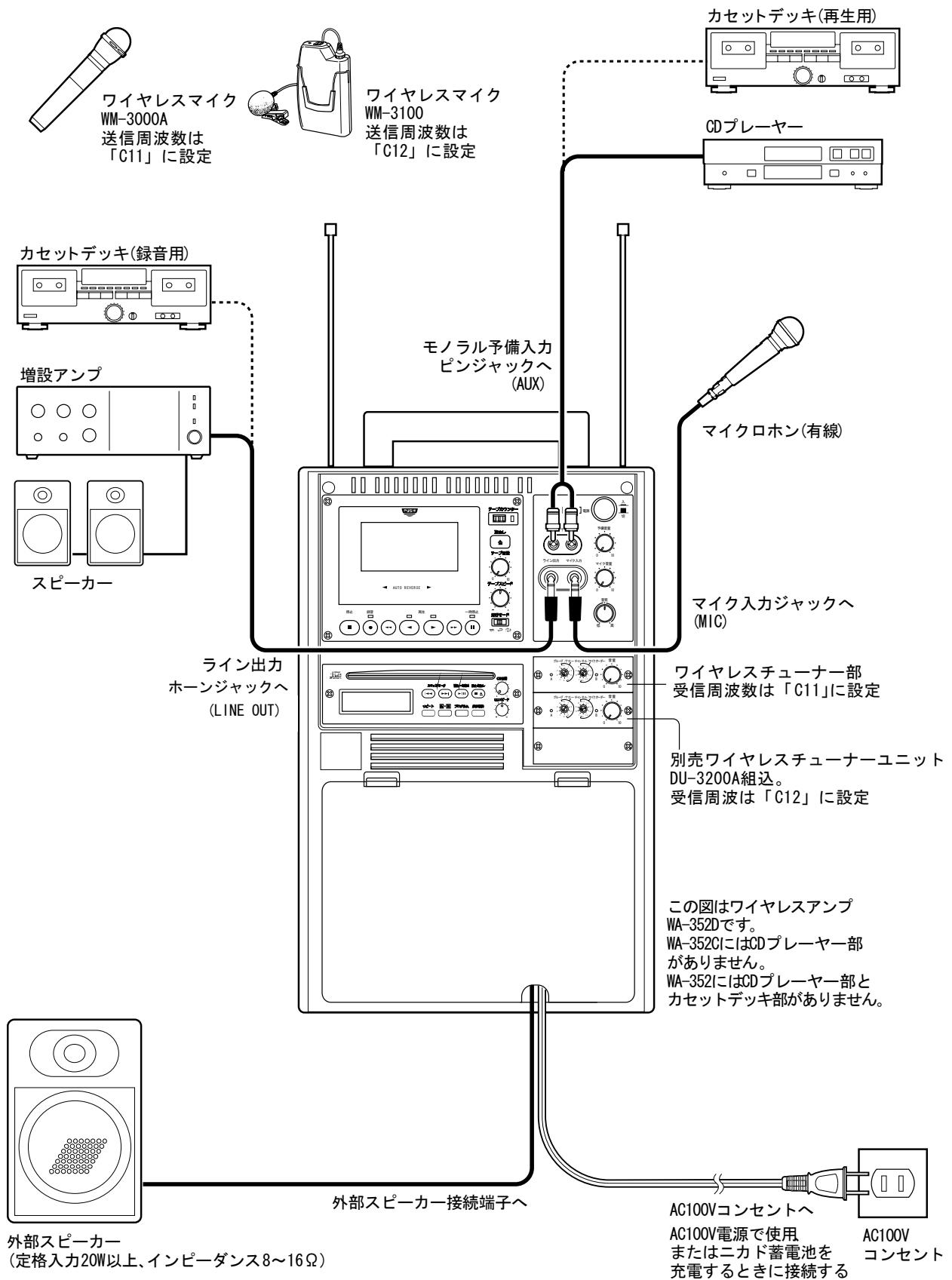
■ご確認事項

本機は“Compact Disc”表示のあるコンパクトディスク12cm以外のご使用はできません。CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

■取扱上のご注意

1. 冷えた場所から急激に温度が高くなる場所へ移動し、すぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品が結露して正常な動作をおこなわないことがあります。ディスクが結露しているときは、柔らかい布で拭いてください。光学部品が結露しているときは、1時間ほど放置しておくとし自然に結露がとれ正常に動作します。
2. 本機を傾けた状態で使用すると正常に動作しないばかりでなくメカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクに傷を付ける場合があります。
3. CD挿入口からのディスクの出し入れは無理におこなわないでください。本機の故障やディスクに傷を付ける恐れがあります。
4. ディスク走行中あるいはディスクをイジェクトしている状態で電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたりした場合、ディスクが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、もう一度電源スイッチを入れてディスクを取り出してください。

接続例



点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。



警告

- 次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- 本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は必ず販売店などにご依頼ください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が緑色に点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	乾電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声が出てこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
接続機器の音がおかしい または小さい	接続機器のインピーダンスは合っていますか。	確認してください。
	DC電源で使用の場合乾電池またはニカド蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換えニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	接続機器及び本機の予備音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
内蔵スピーカーの音がでない	内蔵スピーカー切換スイッチが「OFF」位置になっていませんか。	確認してください。
外部スピーカーの音がでない	正しく接続されていますか。	確認してください。

ワイヤレスチューナーユニット部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が緑色に点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの 音声が出てこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクの電池が入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	マイクとワイヤレスチューナー（ユニット）のグループ/チャンネル番号は同じですか。	グループ/チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスチューナー（ユニット）の音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

カセットテープデッキ部

[WA-352D・WA-352C]

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
テープが走行しているのに音がでない	未録音のカセットテープがセットされていませんか。	確認してください。
	テープ音量調節つまみが「0」になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
前回に録音した音がときどきでる	前回、本機で録音された場合	消去ヘッドを清掃してください。(P17のデッキのお手入れのしかたを参照)その後、録音をやり直してください。
	前回、他機で録音された場合	録音をやり直してください。
音がかすれたり、ふるえたり、また録音がきれいにできない	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッドが汚れていませんか。	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッド部を清掃してください。(P17のデッキのお手入れのしかたを参照)
	テープが傷んでいませんか。	別のテープと取り換えて問題がなければ、新しいテープと交換してください。
録音できない	カセットテープの誤消去防止つめが折り取られていませんか。	誤消去防止つめが折り取られていれば、溝にセロテープを貼ってください。(P17の録音されたテープを誤って消去しないためにを参照)
自動選曲ができない	録音の方法を誤っていませんか。	P16の一曲頭出し(自動選曲)の録音のしかたを参照

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	ディスプレイ表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	CDプレーヤー部後面の ID設定スイッチを変更していませんか。	ID設定スイッチをすべて上側 (OFF) にしてください。
演奏時間は進んでいるが音声がでてこない	CD音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
CDが入らない	本機の中に CDが入っている。	停止/取出しボタンを押して、CDを取り出してください。
CDがすぐ出てしまう	CDを裏表逆に入れていませんか。	CDのレーベル面を上にして入れてください。
CDがイジェクトできない	極端な電源変動による誤動作、または機構の誤動作。	販売店などへご相談ください。ドライバーなどで無理に取り出さないでください。
音飛びする、再生途中で停止する	CDが汚れている。	CDを柔らかい布で拭いてください。
	CDに傷やそりがある。	傷やそりの無い CDに交換してください。
音飛びする	CD-R、CD-RWを使用していませんか。	データ書込みの状態、及び使用メディアの条件などにより、正常に再生できない場合があります。正常に再生できるものと交換してください。
CDを認識しない		

付属の防塵カバーについて

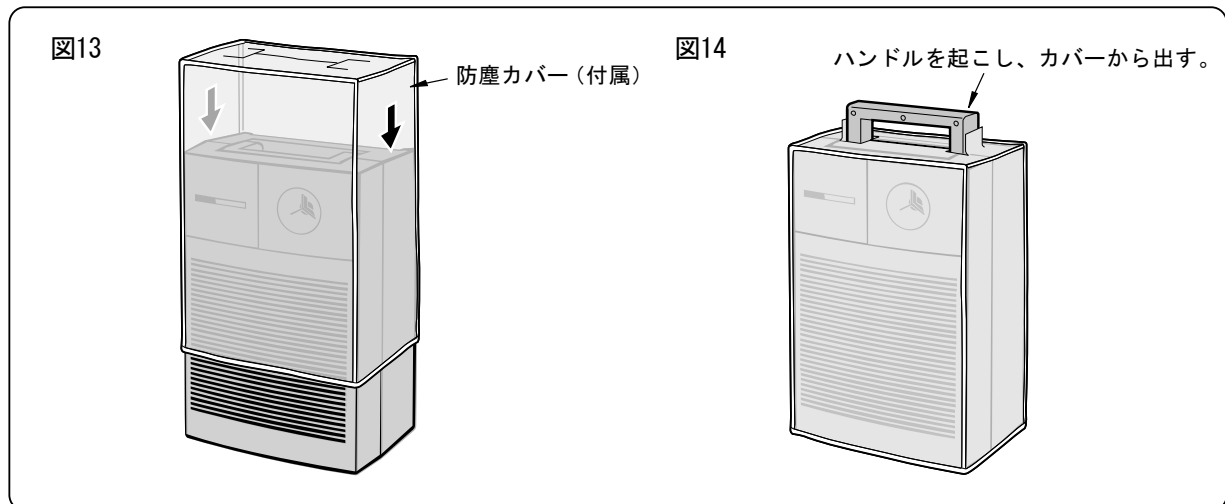
●付属の防塵カバーは本機を埃や傷から保護するため、保管時または移動時などにご利用ください。

防塵カバーの取り付けかた

- 防塵カバーを取り付けるときは、必ず接続機器のプラグをはずしてください。(カセット付の場合はカセットホルダーを閉める。)
- 防塵カバーは前後関係なく本機に取り付けてください。
(図13参照)

移動するときは

- 防塵カバーを取り付けた状態で移動するときは本機のハンドルを起しカバー上部の切れ込みより出してください。(図14参照)
- 移動が終わり、保管する場合はハンドルを倒しカバー内部に収納してください。



警告

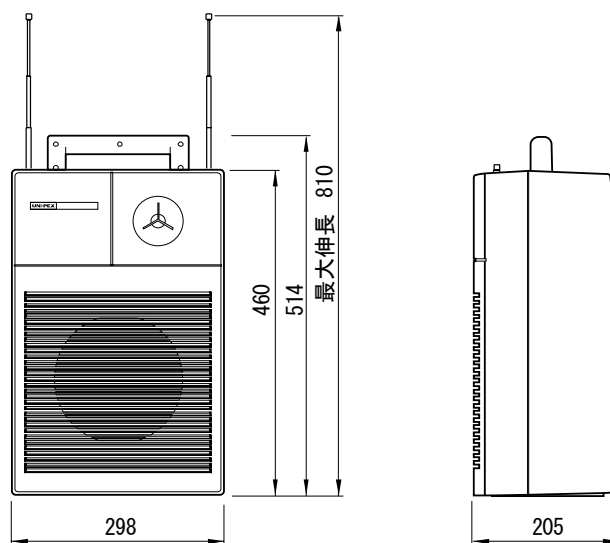
- 防塵カバーを取り付けたまま本機を使用しない。通風孔がふさがり内部に熱がこもり火災の原因となります。
- 本機に水滴が付いたまま防塵カバーを付けない。火災や感電の原因になることがあります。特に保管される時はご注意ください。よく乾燥させてからカバーを取り付けてください。

定格

品番	WA-352D	WA-352G	WA-352
使用電源	AC100V 50/60Hz、R20P(単一形)×8、専用ニカド蓄電池		
定格消費電力	56W (電気用品安全法による測定方法に基づく)		
消費電流	AC1. 2A (20W出力時) DC2. 8A (8W出力時)		
定格出力	AC時: 20W, DC時: 8W		
ひずみ率	5% (1kHz 定格出力時)		
周波数特性	70Hz~12kHz (偏差±3dB), カセット125Hz~10kHz (偏差±3dB)		
音質調節	4kHzに於いて+5dB/-10dB (1kHz基準) 調節器付		
入力感度及びインピーダンス	マイク: 約-56dBV 600Ω 不平衡 音量調節器付 予備: 約-22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 チューナー部入力: 約-26dBV 10kΩ 不平衡		
信号対雑音比	70dB以上(カセット部は除く)		
外部接続スピーカー	8Ω~16Ω 許容入力 20W以上		
ライン出力	0dBV 1kΩ 不平衡		
アンテナ方式	ロッドアンテナ×2		
動作表示	電源: 発光ダイオード(緑) 減電圧時(赤) 充電: 発光ダイオード(赤)		
●チューナー部			
受信周波数	322. 025MHz~322. 150MHz、322. 250MHz~322. 400MHz (25kHz間隔13波)		
出荷時設定受信周波数(グループ/チャンネル番号)	322. 050MHz (C11)		
受信方式	PLL制御スーパーヘテロダイン方式		
受信感度	20dBμV		
受信表示	2色発光ダイオード×2 待機時(赤)、受信時[選択側受信部(緑)、非選択側受信部(赤)]、設定外時(赤/点滅)		
●カセット部			
適合テープ	フィリップス形コンパクトカセットテープ (C-120、エンドレステープを除く)		
メカニズム	フルロジック		
制御方式	オートリバース方式		
テープ速度	4. 75cm/sec (再生時±10%可変)		
ワウ・フラッター	0. 25% WRMS		
トラック方式	2トラック 1チャンネル		
ヘッド	録再1、消去1(ロータリー式)		
選曲	前後一曲		
早巻き時間	約120秒(C-60使用時)		
録音方式	オートレベル、交流バイアス方式		
消去方式	交流消去方式		
回転部寿命	約1000時間		
付帯機能	テープカウンター、テープスピード調節器、一時停止、走行モード選択、テープ音量調節器 オイルダンパ式カセットホルダー		
動作表示	録音時: 発光ダイオード(赤) 再生時: 発光ダイオード(緑) カセット一時停止時: 発光ダイオード(橙) テープカウンター: 機械式		
●CDプレーヤー部			
適合CD	コンパクトディスク12cm		
周波数特性	20Hz~20kHz (偏差±1dB)		
スピード可変範囲	±15%		
付帯機能	シングルリピート・オールリピート・A-Bリピート ・プログラム再生・自動バックライトオフ機能		
表示	動作表示(液晶表示) バックライト付		
使用温度範囲	0°C~+40°C		
外装	ケース(ABS樹脂): マンセル N7 近似色 ライトグレー		
寸法	幅 298mm 奥行 205mm 高さ 460mm (アンテナ最大伸張時 810mm)		
質量	8. 9kg(乾電池蓄電池を除く)	8. 0kg(乾電池蓄電池を除く)	7. 3kg(乾電池蓄電池を除く)
付属品	取扱説明書(保証書付) 1、電池ケース 2、マイク固定パッド 2、設定用ドライバー 1、防塵カバー 1、チャンネル識別シール 1		
適合品	ニカド蓄電池 (WBT-2000)、ワイヤレスチューナーユニット (DU-3200A)、入力ユニット (EU-300)		

外觀寸法図

(単位mm)



製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペック株式会社

RKTWA352-H0-E